

地域を元気に！夢プロニュース

発行：本吉夢プロジェクト委員会 問い合わせ先：本吉夢プロジェクト委員会事務局 tel:0226-48-5505

新しい年に向けて



本吉夢プロジェクト委員会
委員長 佐藤和文

地域を元気に、夢をカタチに
夢プロが目指すものとして、私
たち本吉夢プロジェクト委員会
が発足以来掲げてきた活動方針
が一つの実現に至りました。

それは、気仙沼市長に要望し
て2年4ヶ月、昨年7月24日モ
ーランド・本吉にパークゴルフ
場がオープンしたことです。

長い間、オープンに向けて準
備を重ねてきた運営委員会のメ
ンバーはもとより、用地を提供
していただいた気仙沼市をはじめ
、農地転用等に許可をいただ
いた宮城県の関係部局のご支援
あつての実現であります。

当初4月オープンを目指して
整備を進めてきましたが、新型
コロナウィルスの感染拡大によ
り3ヶ月延期した7月にオープ

ンすることとなりましたが、猛暑
の中連日多くの方々が一プレーさ
れました。又、本吉地区内外の団
体から土日を中心に予約をいた
だきました。

モーランドパークゴルフ場の
設置目的は、地域の活性化と市民
の健康づくり、モーランドの活性
化」であります。プレーを楽しむ
多くの方々からコース整備をは
じめ大会運営などに多くの貴重
なご意見とご提言を賜りました。

これらを新年度に活かし、来年度
中に三陸自動車道が県内での全
線開通が見込まれておりますが、
これに合わせて交流人口の拡大
に結びつけたいと考えています。

このことが、地域の活性化とな
り、設置目的に更に近づけるもの



モーランドパークゴルフ場竣工祭 (7月23日)



夢がカタチになったモーランドパークゴルフ場

と信じています。

令和2年には多くの新人が当
委員会に参加してくれました。4
月から12月まで8回行ったワー
クショップの中で、活発に意見を
出し合って活動してきました。

その活動の中での決まりは、他
人の意見は聞き、否定しないこと
が基本にあります。本吉地区全体
の中で今求められていること、夢
に終わらず実現に向けての手法
を語り合い、それにはまず自分
が参加している楽しさがなければ
会は続いていきません。いくつか
の新たな出発点を語り合っている
現在の当委員会、新たな年に向
かってスタートします。
市民の皆様におかれましては

寒さが厳しい季節の折、風邪など
引かないよう体調管理に気をつけ
てお過ごしください。又、新型コ
ロナウィルス感染防止対策も怠ら
ないようお願いいたします。



講師を招いてのワークショップ

新市基本計画等に係る

懇談会」を開催

当委員会では、1月26日(火)
午後7時から本吉公民館において
菅原市長をお招きして「新市基本
計画等に係る懇談会」を開催しま
す。

当日は「般市民の皆様への傍聴も
できますので、是非足を運んでみ
てください。



視察研修を実施

本吉夢プロジェクト委員会では11月8日(日)、10名が参加し視察研修で陸前高田市とお隣の住田町を訪問しました。

当日は秋晴れの好天に恵まれ、絶好の視察研修日和となりました。

最初の視察地として向かったのは、陸前高田市の矢作町生田地区にある陸前高田市交流促進センター「ホロタイの郷炭の家」です。

私たちが到着すると、市から委託され当該施設を管理運営する矢作町生田地区コミュニティ推進協議会の菅野会長さんらが出迎え、説明してくれました。

当該施設は、農業農村の恵まれた地域資源を活用し、農村と都市の体験交流を通じ地域の活性化を図る施設で、自然景観を求めるグリーンツーリズムの方々や体験学習、研修等に利用できる多目的施設として市が建設したものでした。昭和62年から木炭での地域おこしという事で「生田木炭まつり」を開催してきたのですが、当初の実行メンバーがそのまま、又、炭焼きをするメンバーも少なくなっ

た。現在1名のみ(ことから、30回を数えたところで終了したとのことでした。当該地区では、今後はこれに代わるイベントとして何かをやりたいが、現在高齢化率が51%であり、高齢者を対象とした事業としては足(交通)が課題とのことでした。

特に印象に残ったことは、以前は市有林の払い下げにより炭焼きの原材料を確保していたものが、震災後放射能汚染により払い下げが受けられず、炭焼きができない状況になったということです。



陸前高田市交流促進センター「和タイの郷炭の家」

次の視察地として訪問したのが住田高校「住高ハウスOO」です。

住田町は人口が5300人、町の総面積の約90%が森林で、鹿の生息数が7700頭という町です。

町内にある住田高校は生徒数85人で、同校の課題は生徒数の減少で、平成30年度の入学者は22人。入学者が2年連続して20人以下の場合翌年度募集停止で統合対象)

町では、この対策として同校の魅力化を図るべく通学費、給食費の支援、自学自習の支援などを行うほか、平成30年度から教育コーディネーターを採用し、現在3人が活動しているとのことでした。

当日、私たちに説明してくれたのは、当初から教育コーディネーターとして活動している小宅優美さんです。

彼女が最初に行ったのは、生徒や教諭、保護者らへの聞き取り調査で、通学生徒の大半を占めるバス通学のバスの待ち時間を過こせる場所がないなどの悩みを知り、生徒の居場所づくりの必要性を感じてそのことを調査報告会で報告しました。これを受け町教委はその年の10月に同校の研修会館内に「住高ハウスOO」を開設し、運営を開始したとのこと。

「住高ハウスOO」では、生徒の日々の学習、受験勉強のサポートや、地

域と交流する手伝いをするほか、学校生活の悩み相談に乗ったり、生徒の様々なニーズに応える活動をしているとのこと、住高生のチャレンジを応援する場所になっているようです。このように、町と高校とが連携して住田高校の魅力化に取り組んでいる様子が感じられました。

第1回くまちを元気に 本吉パークゴルフ大会開催

昨年9月27日(日)、7月にオープンしたモーランドパークゴルフ場で当委員会主催第1回くまちを元気に本吉パークゴルフ大会を開催しました。当日は39人が参加、和やかにプレーを楽しみました。



第1回くまちを元気に本吉パークゴルフ大会 (モーランドパークゴルフ場)